

那珂川だより

那珂川緊急治水対策プロジェクトに盛り込まれた河川対策の進捗やソフト対策の検討状況をお知らせします

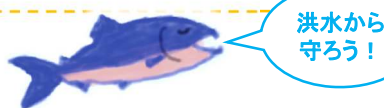
令和3年5月
第11号



出水期に向けて

◆5月は水防月間です

- 国土交通省では、防災・減災の取組の一環として、梅雨や台風の時期を迎えるにあたり、国民一人ひとりが水防の意義及び重要性について理解を深められるよう、毎年5月（北海道では6月）を「水防月間」として定めています。
- 気候変動の影響により頻発・激甚化する自然災害に対し、流域全体を俯瞰し、あらゆる関係者が協働して治水対策に取り組む「流域治水」の実効性を高める重要な取組の一つとして、各地域において総合水防演習等の水防訓練や水防団等と河川管理者による共同点検等、様々な取組を実施します。



◆水防連絡会を開催

- 令和3年4月22日に6月からの出水期に向けて「水防連絡会」を開催しました。
- 水防連絡会とは、国・県・市町村、気象庁の防災担当者が、河川が増水しやすい時期の前に、洪水時に危険が予想され重点的に巡視・点検が必要な箇所（重要水防箇所）や情報伝達の方法の確認や情報共有する場です。
- 今回は、今年度の重要水防箇所の説明や防災気象情報（危険度分布）の改善、緊急治水対策プロジェクトの情報提供などを行い、出水期に備えました。



水防連絡会の様子

◆ハザードマップの紹介

- 洪水ハザードマップ（防災マップ）を見たことはありますか？
自宅や学校、職場などの周辺の浸水想定を確認したうえで避難先や避難方法を事前に決めておくことで、いざという時により安全に避難できます。
- 市町村では全世帯にハザードマップを配布していて、HP等でも簡単に確認できます。また、国土地理院の「ハザードマップポータルサイト」でも市町村のハザードマップを探したり、洪水などの災害のリスク情報を地図と重ねて見ることもできます。



住所入力や市町選択で情報を確認
こちらのQRからスマホでも閲覧可能

<https://disaportal.gsi.go.jp/>



高校生が最新の建設技術を体験しました



- 令和元年東日本台風（台風第19号）で被害を受けて災害復旧工事を実施していた那珂川の那珂川町小川地先で、令和3年4月22日に栃木県立那須清峰高等学校の建設工学科3年生約40人が最新の建設技術を体験しました。
- 情報通信技術を活用した最新の建設技術について、通常の工事現場では複数人で行っている測量が人工衛星から位置情報を受信する最新の機械を使うことで1人で行えることやショベルカーに設計図を読み込ませて自動制御すると一定の深さで穴を掘ったり、地面を均したりすることができることを学びました。
- 参加した生徒からは、「授業で教わらないことを現場で学ぶことができ、今後に進路にも役立つ良い機会になりました。」などの感想が寄せられました。



常陸大宮市野口地区、下伊勢畑地区の堤防整備に関する地元説明を行いました

- 令和3年4月27日に常陸大宮市御前山市民センターで那珂川左岸常陸大宮市野口地区の堤防整備（約1.4km）について、設計内容や用地取得に関する説明会を開催しました。
- 説明会は三密を避けるため、回数を分散して開催し、新型コロナウイルスによる感染症拡大防止対策を実施して行いました。
- また、那珂川右岸常陸大宮市下伊勢畑地区の堤防整備（約1.3km）については、回覧やお知らせにより説明させていただきました。
- 地域住民や地権者のみなさまにおかれましては、引き続きご理解とご協力をお願いします。



常陸大宮市御前山市民センター

コラム 水防団の活躍 ～水防団とは？～

- 毎年のように水害に見舞われる日本では、河川管理者が実施する「治水施設の整備」と市町村・地域住民が実施する「水防活動」が車の両輪となって水害の拡大を防いでいます。水防とは自らの地域を自らの手で守る自衛の減災活動であり、その中心となるのが「水防団」で、日頃から土のうや杭ごしらえ、竹とげなどの準備から積土のう工法、五徳縫工法など、水防工法の訓練を重ねています。
- 台風第19号では、久慈川・那珂川沿川地域でのべ五千人の水防団員が見回りや土のう積み等の水防活動、住民の避難誘導・救助などを行い、住民の安全確保と被害の軽減に多大な貢献をしました。その功績が認められ、流域のいくつかの市町村水防団は「令和元年度水防功労者国土交通大臣表彰」を受賞しました。



水防工法の訓練の様子



国土交通省 関東地方整備局
常陸河川国道事務所 調査第一課
TEL: 029-240-4069



〒310-0851
茨城県水戸市千波町1962-2

プロジェクトに関するお問い合わせはこちらです

常陸河川国道事務所

検索

